

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 67 (年4回発行)

■発行日 平成25年3月31日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

出前懇談会 レポート

今、「三春町の町政・町議会」について 思っていること！

— 三春町議会議員との懇談会⑨から —

去る二月十三日、三春交流館まほら学習室において第五十六回出前懇談会「三春町議会議員との懇談会」が開催されました。毎年二月に開催してきたこの議員との懇談会も今回で九回目となりました。

当日は陰山丈夫議員、佐藤弘議員、小林鶴夫議員、鈴木利一議員（議席番号順）の四名が出席され、「三春町の町政、町議会について思うこと」というテーマで、参加した町民の皆さんとの質疑応答、意見交換が行われました。

本号では、出席された議員の方々の説明と質疑応答の模様を中心にレポートします。なお、紙面の関係上、発言内容を要約して編集してまいりますので、あらかじめお断りいたします。

はじめに自己紹介を兼ねて、それぞれの議員から「三春町の町政、町議会について思うこと」について話をもらいました。

【鈴木利一議員】
▽議員になって一年四ヶ月。文教厚生常任委員会に所属している。

▽敬老園の跡地に地域密着型（三春町民優先）の介護施設が今年の夏頃に開所する予定。現在のよう順番待ちを無くし、三春の人たちが地元で介護を受けられるようになっていきたい。

▽障害者福祉の窓口として「相談員」制度を整備活用していく。

【陰山丈夫議員】
▽保育所の指定管理者制度導入が検討されているが、それも有効な手段のひとつだと考える。民間に任せても良いものは任せ、身軽な役場とすべき。

▽人口減少社会の青写真を描かなければならない。

▽通年観光に取り組んでいるが、バイパス開通に伴い、三春が通過点になってしまわないようにしたい。



【小林鶴夫議員】
▽現在二期目。この五年の議会経験で感じたこととして、役場は日々の仕事はきちんとこなしているが、大きなテーマ、計画が実行されていないことが多い。

▽例えば平成十二年作成のエネルギービジョンも進んでいない。岩手県の高巻町では、エネルギーの自給率が八〇%以上という取組みに成功している。

▽通年観光に関しても、町の観光ビジョンが未だに出来ていない。

▽議会については、常任委員会制度ではなく全員が本会議で全議案を討論すべきと考える。それが議員の定数削減にもつながる。

【佐藤弘議員】
▽旧町の仮置場が決定したので新年度から除染が進む。

▽新中学校に関しては、通学路の問題が大きい。

▽第一保育所の民営化、役場庁舎の建替え、図書館の問題にあわせ、児童館も検討していきたいが、皆が意見を出し合うことが大事。

▽議会、議員は町民の代表であり、庁舎に関しても議案案を提出している。



【質問、意見】
この後、質問、意見交換となりました。今回は議会改革に関する質問が多く出されましたが、その中のいくつかを紹介いたします。

□役場庁舎の建替えて、議会・議場はどうなるのか
▼また具体的な建物の図面としては出てきていない。役場庁舎は二十七年完成の予定。

□全員協議会の中身は町民には分からない。全員協議会を正規の会議にして町民に公開してはどうか
▼全員協議会は昭和五十年頃から毎月一回開催されている。現在、全員協議会は正式なものではないが、法的なものも含めて、議会改革の課題だといえる。

□常任委員会は部屋が狭く、事実上傍聴しにくい状態だが、常任委員会方式の改革案はあるか。
▼常任委員会方式を止めて十六名全員で議論する本会議方式にする考え方の議員もいる。

定例出前懇談会の取り組み変更のお知らせ

三春まちづくり協会は、三春町第六次長期計画に連動した協働のまちづくりを推進するため、課題解決型を志向した事業活動を展開しています。この一環として、三春町の行政をはじめとするさまざまな生活課題について、町・議会そして地域住民の皆さんとの情報共有を図る場として「定例出前懇談会」の開催を企画し、平成20年4月9日の第1回から、平成25年3月まで5年間通算57回（東日本大震災等により3回休会）に亘り実施してきました。

この間、町役場各部門担当及び議会議員の参加協力をいただき、また多くの住民の皆さんにも出席をいただくと共に、重要かつ必要な課題については「広報-三春わが街」に掲載し、広く住民の皆さんへ周知を図るなどにより所期の目的を達しており、関係者の皆さんに対し深く感謝致します。

4月以降は、定例方式ではなく、課題のある度に開催することとし、開催内容は従来どおり広報チラシでお知らせ致します。

また、出前懇談会で取り上げたい課題等のご意見、ご要望がありましたら三春まちづくり協会事務局へお寄せ下さい。

□議会の付属機関（政策調査機関）として各方面の専門家を招いて審議会を設置してはどうか。
□議会改革は議会ではなく町民から提案していくことも大事ではないか。

最後に各議員から本日の懇談会の感想を聞きました。

（鈴木議員）
全員協議会の議事録を残すことが大事だと感じた。各地で議会改革が行われ

ており、只見町では通年議会が行われている。今後も出来ることから議会改革に取り組んでいきたい。（小林議員）
町民に議会の中が見えていないと感じた。ぜひ町民からの提言が欲しい。（佐藤議員）
議会改革は議員ひとりひとりの自覚が大事。ひとつひとつゆっくりやっていきたい。保育所の民営化等について旧町の意見が聞えないのが残念。

《プチ特集》『三春の認知症について』-①- 一定例出前懇談会より



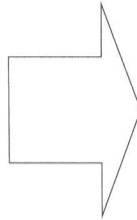
福祉部会は、「町民だれもが元気で健やかに暮らせるまちづくり」をテーマに活動しています。

今年度は、加齢と共に増加する認知症について学びたいと部会の中で声が上がったことから、誰もが出来るなら避けて通りたい「認知症」について学習する事となりました。そこで先ず、三春町の現状を知り、予防出来るならどうすれば良いのかを学習することとし、部会内学習から全体研修へと拡大させ、昨年十月の出前懇談会でとりあげました。保健福祉課から講師を派遣して頂き、町民の皆さんへも参加を呼びかけ、学習会形式で実施しました。その概要をお知らせします。
(福祉部会長 田部 敬子)

三春町の認知症の現状と対策

最初に、福祉グループ長の渡辺和子さんから説明がありました。

- 三春町における認知症高齢者数は要介護認定申請に基づく平成23年3月31日現在、認定者数は752人である。現在町内には認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）が三カ所45床あるが、すでに満床の状態である。
- 平成23年度相談事業実績—相談者実人数421人、相談内容別述べ件数896件。



- そこで、高齢者が在宅で生活を継続できるように、介護保険サービスを中心とした各種のサービス紹介や手続きに係る支援などの対応が保険センターにある『三春町いきいき支援センター』でなされている。
- また、要支援・要介護に至る前の介護予防事業として介護認定を受けていない65歳以上の方を対象とした体と心の健康づくり教室『(通称)にこにこ元気塾』を社会福祉協議会職員がサポートして、町内七地区八箇所毎週一回開催され参加者を募集していることが紹介された。

認知症の症状と予防

続いて、健康づくりグループ長佐久間美代子さんの『認知症予防』の楽しい講話がありました。

はじめに、日常生活13項目のチェックリスト（別表. 1）に各自挑戦しました。

どうして年を取ると、認知症になるの？認知症を防ぐ手立て、それは、食習慣と生活習慣にあるということでした。

『認知症』を防ぐ生活習慣のポイント

ポイント1 食生活

食習慣は脳の老化を大きく左右する！



ポイント2 運動

脳細胞は楽しい運動で働きアップする！

ポイント3 笑い

笑いましょう
笑える人にはドーパミンが！



ポイント4 チャレンジ

いつになっても“やってみる”
脳の活性化はその心から！

〔別表. 1〕

日常生活チェックリスト

日常生活チェックリスト		ときどきある	よくある
A	同じことを何回も話したり、尋ねたりする		
	置き忘れやしまい忘れがある		
B	できごとの前後関係が分からなくなった		
	服など身の回りに無頓着になった		
C	水道栓やドアを閉め忘れたり、後片付けがきちんとできなくなった		
	同時に二つの作業を行うと、一つを忘れる		
	薬を管理してきちんと内服することができなくなった		
	以前はテキパキできた家事や作業に手間どるようになった		
	計画を立てられなくなった		
D	複雑な話を理解できない		
	興味が薄れ、意欲がなくなり、趣味活動もやめた		
	前よりおこりっぽくなったり、疑い深くなった		
	大切な物を盗まれたという		

○が五つ以上ある場合、またはA～Dのうち三つの領域にまたがっている場合は、認知症が疑われます。※「ときどきある」も「ある」も評価は同じです。

高齢化社会にとって避けられない「認知症」の現状や予防について大変わかりやすい資料で学習できました。資料の中から、認知症を予防する生活習慣のポイントと、症状を日常生活から判断するチェックリストを一部参照し掲載しました。詳しくは、保健福祉課担当グループへお尋ねください。分かりやすく、丁寧に説明していただけます。

コミュニティだより
「三春わが街」第六十七号
発行日 平成二十五年三月三十一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町字大町一七八
(六二)三九八八

春のいぶきを感じる季節となり、学生は卒業・大人は定年退職とチョッピリさみしい気分になる別れは人を成長させてくれる気がする。定年を過ぎたらみんなでシニア青年隊を自覚したらどうでしょうか？新たな趣味や生きがいを見つければ楽しい人生を送れる事と思える。▼今こそ自分自身を振り返ってみよう。人間は一人では決して生きていけない。何をやるにも多くの一人に協力してもらい、一つ一つを実現して行くことが出来る。人に頼まれ、役立つ事ができればチョットいい気分になるかも知れない▼世の中では、人を人と思わない様な色々な事件が起きている。非常に残念である。しかし、私達の町では、少年非行はほとんどない事がうれしき限りである。地域によさは人と人との交流だと思おう。まさに、「罪を憎んで人を憎まず」である▼春には、全国から多くの人々が三春町にやって来る。やはり、目的は滝桜が中心になる事であろう。私は、三春町は「心やさしい三春町」を印象づけたい。そして、町民の一人一人がやさしさを考えて、人を大事にする町になってくれる事を望み、大きな期待をしたい。「人を生かす町、それが我が三春町」みんなでガンバリウ！ (橋本)

編集後記